

# 新人スタッフでもできる認知症プログラム「ミッケルアート」

橋口論<sup>1)</sup>, 新名優也<sup>2)</sup>, 増井圭<sup>3)</sup>, 岩村映子<sup>4)</sup>

1) 静岡大学発ベンチャー企業・株式会社スプレーアートイグジン, 2) 介護老人保健施設 岸和田徳洲苑,  
3) 介護付老人ホーム 奈良ニッセイエデンの園, 4) 愛の家グループホーム足立加平

## 1. シンポジウムのねらい

日本の高齢化社会における問題の一つは、認知症高齢者が増加する一方、介護職員の離職率が高いことであり、これに伴い、介護人材が不足していることである。現場に共通する課題は、次の3つが考えられる。

- ① 新人スタッフを中心とする介護人材の育成
- ② 中堅スタッフの経験的なノウハウの伝承からエビデンスに基づくケアの確立
- ③ ご家族に対するケアの説明責任

これらの課題に対応するため、認知症プログラムの開発、人材の育成、ケアの説明責任のあり方が求められているが、そこでのキーワードはエビデンスである。「新人スタッフでもできる認知症プログラム」というテーマには、現在の介護施設が直面している現状と課題とが集約されていると考えられる。本シンポジウムでは、具体例としてエビデンスに基づく認知症プログラム「ミッケルアート」を説明し、フロアの皆様との意見交流を図って討議を展開し、「新人スタッフでもできる」という難題についての理解を深めて行くことにしたい。

## 2. 「新人スタッフでもできる」ためには

ミッケルアートの開発にあたっては、高齢者が自分らしく生き生きと暮らせる社会をつくるため、特に介護施設においては高齢者にとってのコミュニケーションの機会と場づくりを重視した。そして、高齢者が回想しやすいコミュニケーションツールとして昔懐かしい絵画「ミッケルアート」を開発した。ミッケルアートは、高齢者のコミュニケーションを効果的に促進するため、絵画の題材として、茶の間、木造教室など、当時の日本の生活に伝統的な風習を意図的に描くことで「懐かしい」という感情を喚起し、同時に、隠し絵的に配置された動物、教科書などのアイテムを「見つける」というクイズ性を付加している。さらに、新人スタッフでもミッケルアートを活用してケアができるように、絵の裏面に会話のマニュアルが示されている。

これまでの研究を通して、ミッケルアートによる脳機能の活性化、眼球運動の促進、発語数の増加が確認され、また、BPSD 緩和への有効性を示す結果を得て

いる。ミッケルアートの開発を通して、新人スタッフでもできる認知症プログラムを開発するためには、次の3つが明らかとなった。

- ① 使い方が初心者にとってもシンプルであること
- ② スタッフ同士が学び合えること
- ③ ご家族への説明がしやすいこと

## (謝辞)

本シンポジウムにあたっては、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授 齋藤やよい先生、同大学院 大黒理恵先生、大河原知嘉子先生、静岡大学名誉教授 山田文康先生、医療法人徳洲会、社会福祉法人聖隷福祉事業団、メディカル・ケア・サービス株式会社、株式会社リボーン、株式会社まごころ介護サービスの各位の協力を得ました。記して感謝の意を表します。